

岩国基地におけるF-35Bへの機種更新について（検討結果）

令和2年9月

照会に対する国の回答や騒音予測コンター等の内容を踏まえ、航空機騒音や安全性等の面から、基地周辺住民の生活環境への影響について、次のとおり整理しました。

1 運用

- 新たな飛行経路の設定や施設整備の計画はないなど、既に配備されているF-35BやFA-18とほぼ同様の運用が見込まれている。

2 航空機騒音

- 騒音予測コンターにおいて、陸上部分においては、70W以上の地域が一部、増加するものの、75W以上の地域に大きな変化はなく、全体としては騒音に与える影響は小さい。
- 各騒音測定地点での予測値についても、ほとんど変化はない見込である。
- 国は、F-35Bの訓練移転について、引き続き、日米間で適時適切に調整し、今後とも、米側に対し、騒音軽減が図られるよう、一層の協力を求め、可能な限り地元の負担軽減に努めるとしている。

3 安全性

- F-35Bの機体について、米国防省は、飛行の安全に関する課題等については、必ず改善を行うなど、適切な対応を講じて運用しており、飛行の安全に影響する問題はないと国も確認している。
- 搭乗するパイロットについては、訓練を十分に重ね、操縦資格を取得した後に配備されるものであり、平成30年の接触墜落事故を踏まえ、人員配置方針の見直しや部隊の規律維持、搭乗員への教育の徹底等に取り組んでいる。
- 平成29年の岩国基地におけるF-35Bへの機種更新以降、住民に影響を及ぼす事故の発生はない。

4 その他

- これまでも、大気や水質に大きな影響を与えておらず、今回の機種更新後においても、特段の変化は生じないと見込まれる。

《検討結果》

以上から、このたびのF-35Bへの機種更新は、基地周辺住民の生活環境に大きな影響を与えるものではないと考えられる。